

津久田 諭 氏の学位審査結果の要旨

主査：塩島 一郎

副査：藤澤 順一、六車 恵子

IgG4 関連疾患は、リンパ球と IgG4 陽性形質細胞の著しい浸潤および組織線維化により全身諸臓器に腫大・結節・肥厚性病変をみとめる難治性の疾患である。IgG4 関連疾患の一部に、過剰な炎症反応をとめない、炎症性サイトカインである IL-6 が血中で増加している症例があることが従来報告されていたが、このような症例の臨床的特徴については明らかにされていなかった。

そこで申請者らは 2002 年以降当院で診断された 129 名の IgG4 関連疾患患者のうち、ステロイド治療開始前の血清 IL-6 値が測定されていた 43 名を対象に、血中 IL-6 高値を示す IgG4 関連疾患患者の臨床像について調査した。IL-6 の正常上限 4pg/ml で IL-6 低値群と高値群の 2 群に分けて検討したところ、IL-6 高値群では低値群に比べて年齢・CRP・AST が高く、アルブミン値が低いことが明らかになった。また、罹患臓器としては肝臓・脾臓・腎臓が有意に多く見られた。治療後再発の有無で 2 群に分けると、IL-6 値は両群で有意差はなかった。

IL-6 高値の IgG4 関連疾患は時に Castleman 病など他疾患との鑑別が困難なことがある、このような患者さんの臨床像を明らかにした本研究は IgG4 関連疾患の病態や診断を考えるうえで重要であり、その臨床的意義は大きいと思われる。